

気づきを  
大切にする

親同士が  
つながる

# 親学プログラム

## の取組が始まっています

親の  
社会的役割に  
気づく

親と  
学校等が  
つながる

みんなで  
楽しく  
語り合う

すべての  
子育て層を  
対象とした

「いじめや児童虐待予防に対応した親学プログラム」の  
開発に取り組んでいます。

少子化や核家族化、価値観の多様化や経済状況の変化等による急激な社会の変化により、

現代は「家庭教育が困難な社会」と言われています。

このような背景のもと、参加者同士の交流をとおして

“親としての役割”や“子どもとのかかわり方”の気づきを促す「親学プログラム」を開発し、

同時にプログラムを進行できる「親学ファシリテーター」の養成を行ってきました。

さらに、喫緊の社会問題である「いじめや児童虐待」の未然防止に対応するため、

「親学プログラム」でねらう気づきに加え、

地域ぐるみで（親同士がつながって・親が学校等と協力して）子育てに取り組もうとする気運が高まるよう

「いじめや児童虐待予防に対応した親学プログラム」の開発に、平成25～27年度の3カ年計画で取り組んでいます。



## 「いじめや児童虐待予防に対応した親学プログラム」の概要

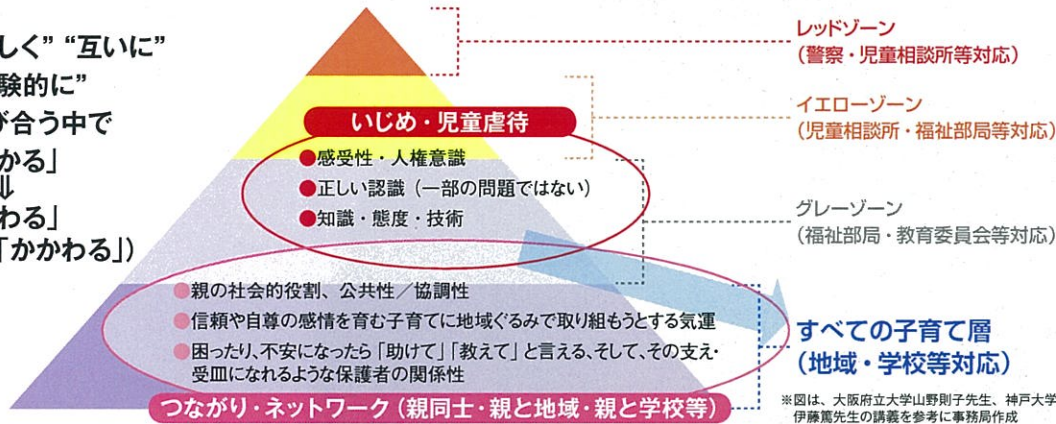
このプログラムは、『親学プログラム』の「3つの“た”」（楽しく・互いに・体験的に）の考え方を大切にしつつ、次のような気づきを促すプログラムです。



- 親が“他の子や親”との関わりを考える中で、「親の社会的役割」に気づく
- 親同士・親と地域・親と学校等が相互につながることの大切さに気づく
- いじめや児童虐待、人権にかかわる内容を扱い、親同士の協働が子どもを守り、育むことに気づく

## プログラムの対象

“楽しく” “互いに”  
“体験的に”  
学び合う中で  
「わかる」  
↓  
「かわる」  
(⇒「かかわる」)

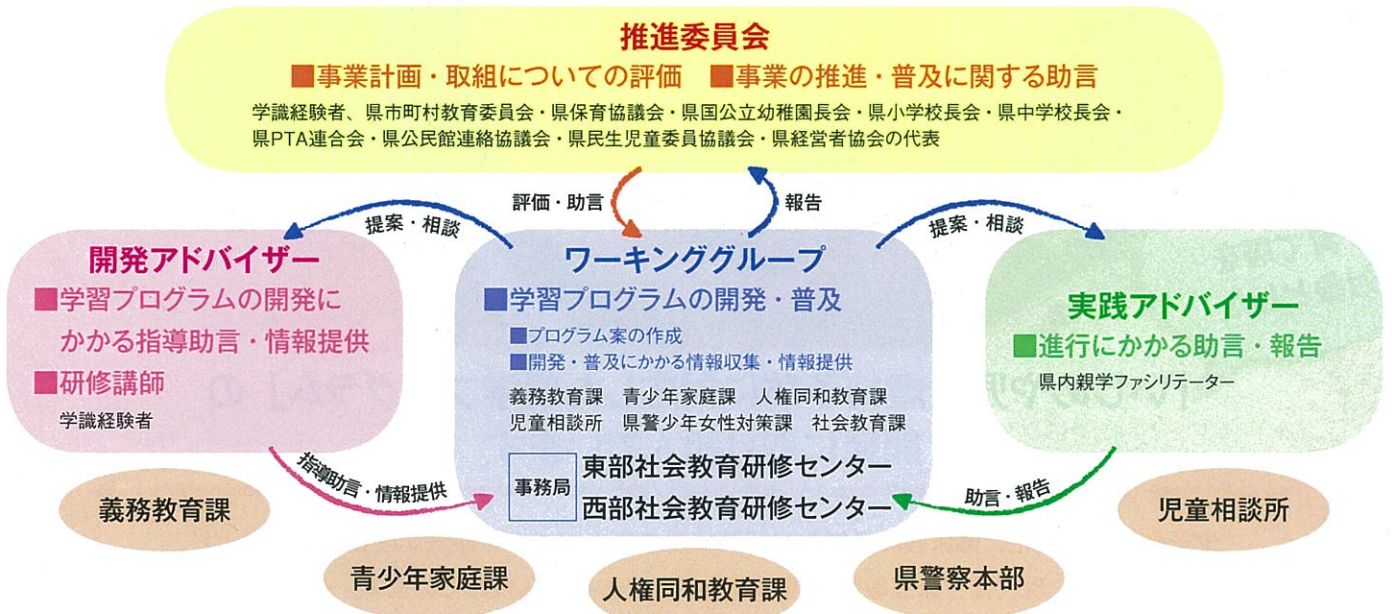


いじめや児童虐待はどの家庭にも身近に起こりうる問題であり、「決して一部の問題ではない」という認識のもと、**すべての子育て層**を対象に予防的支援策となるようなプログラムを開発します。

※図は、大阪府立大学山野則子先生、神戸大学伊藤寛先生の講義を参考に事務局作成

## プログラムの開発・試行・検証の体制

このプログラムの開発・試行・検証は、地域の実情に応じた課題解決の取組を支援できるよう、県および市町村関係各課、地域人材、地域団体等が連携・協働する体制で取り組んでいます。



## ファシリテーターの養成

このプログラムの試行版を平成26年度に作成します。

あわせてこのプログラムが進行できる親学ファシリテーターの養成を平成26年10月以降からはじめます。

お問い合わせ

島根県立東部社会教育研修センター

〒691-0074 出雲市小境町1991-2 青少年の家2F Tel (0853)67-9060  
Fax (0853)69-1380 E-mail:tobu\_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp

島根県立西部社会教育研修センター

〒697-0016 浜田市野原町1826-1 いわみ〜る3F Tel (0855)24-9344  
Fax(0855)24-9345 E-mail:seibu\_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp